

# I 調査の概要

## 1. 調査期間

平成22年1月1日から平成22年12月31日まで

## 2. 調査種別

### (1) 市町村観光動態調査

- ① 観光地点観光客入込延べ数
- ② 宿泊客延べ数
- ③ 外国人客宿泊客延べ数

### (2) 観光地点アンケート調査

## 3. 調査方法等

### (1) 市町村観光動態調査

#### ① 観光庁共通基準調査

市町村観光動態調査の入込について、国土交通省観光庁の観光入込客統計に関する統計基準（観光庁共通基準）に基づいて調査を行った。

#### ② 独自調査

観光庁共通基準では、主に入込数1万人以上の地点を対象としており、それを補完する調査として従来の(社)日本観光協会による全国観光統計基準による地点を対象として、市町村において調査を行った。

①と②を合計して、平成21年と同様の観光入込客数を算定した

### (2) アンケート調査

観光地点アンケート調査については、国土交通省観光庁の観光入込客統計に関する統計基準に基づいて県において調査を行った。

- a 調査対象者 調査期日に、調査観光地に訪れた観光客（宿泊客も日帰り客も含む）を対象とした。
- b 調査期日 平成22年 3月 7日（日）  
平成22年 5月16日（日）  
平成22年 7月25日（日）  
平成22年11月 7日（日）
- c 調査方法 各観光地点（施設）内に調査員を配置して、面接調査による方法で実施した。
- d サンプル数 3,741枚
- e 調査対象地 12地点

観光地点名	市町村名	観光地点名	市町村名
松江城周辺	松江市	道の駅キララ多伎	〃
玉造温泉街	〃	石見銀山地域	大田市
日本庭園 由志園	〃	石見海浜公園 (しまね海洋館アクアス)	浜田市
松江フォーゲルパーク	〃	太鼓谷稲成神社	津和野町
足立美術館	安来市	国賀海岸周辺 (浦郷港観光船・バス発着場)	西ノ島町
出雲大社	出雲市	西郷お魚センターりょうば	隠岐の島町

なお、この調査での地域別の区分は以下のとおりである。

地域名	市 町 村 名
松江地域	松江市、東出雲町
安来地域	安来市
雲南地域	雲南市、奥出雲町、飯南町
出雲地域	出雲市、斐川町
大田地域	大田市、川本町、美郷町、邑南町
浜田地域	浜田市、江津市
益田地域	益田市、津和野町、吉賀町
隠岐地域	海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町

<参考：島根県全域図>



## Ⅱ 調査結果の概要

### 1. 観光入込客延べ数

平成 22 年の島根県の観光入込客延べ数は 28,403 千人であり、前年と比べると 873 千人 (+3.2%) 増加した。

区 分	総 数	内 訳	
		県内客	県外客
観光入込客延べ数 (千人)	28,403	6,158	22,245
構成比 (%)	100	21.68	78.32
対前年増減 (%)	+3.2	+10.7	+1.3

※ 県内客・県外客の別は、観光地点アンケート調査で得られたデータをもとに、県内入り込み客率・県外入り込み客率を算定し、入り込み延べ数に乗じて算出した。

※ 本調査結果での率の合計については、端数処理の関係により 100%にならない場合がある。

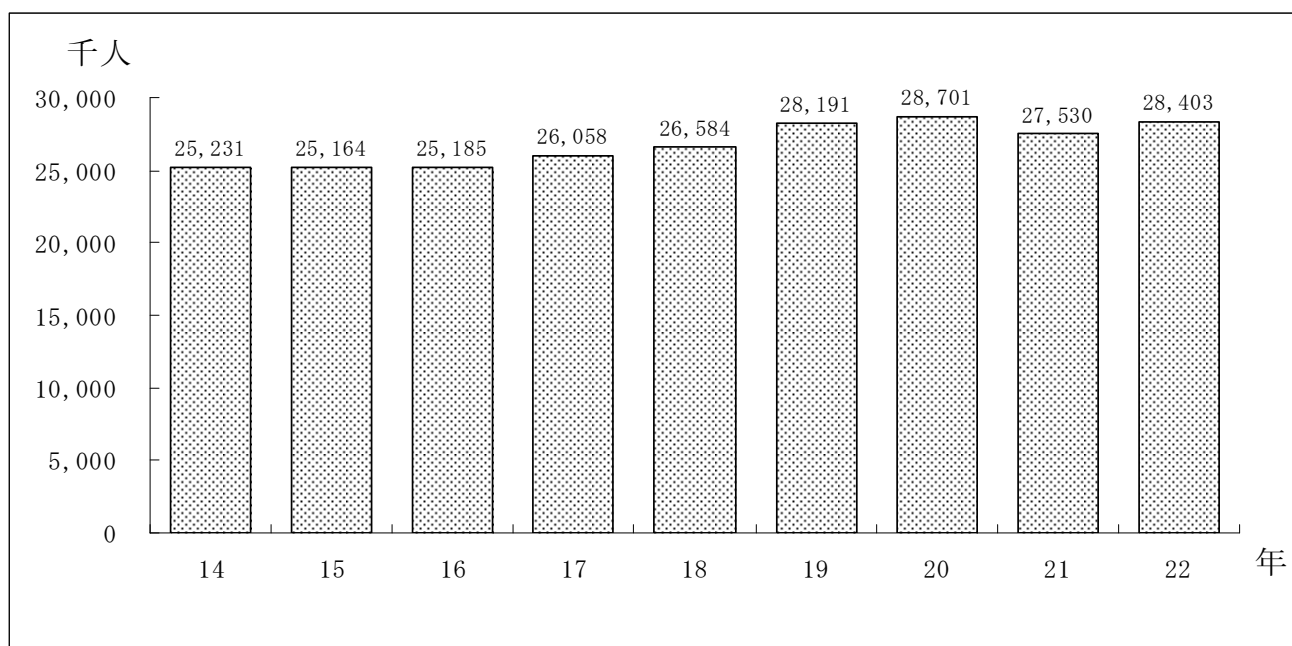
#### 【主な増加要因】

- ① NHK 連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」放送による効果。
- ② 縁結び、パワースポット等の誘客効果
- ③ 夏場の海水浴客の増。

#### 【主な減少要因】

- ① H21 年のホーランエンヤ開催の反動
- ② 石見銀山世界遺産登録効果の平静化

〈観光入込客延べ数の推移〉



## 2. 観光消費額及び経済波及効果

観光入込客延べ数をもとに、観光地点アンケート調査などで得られた一人当たり消費額<sup>※1</sup>などにより推計した平成 22 年の観光消費額<sup>※2</sup>は 1,211 億円であり、前年に比べると 13 億円 (+1.1%) 増加した。

また、この観光消費額が県内に及ぼす経済波及効果は 1,449 億円<sup>※3</sup>であり、前年に比べ 69 億円 (+4.8%) 増加した。

※1 観光庁共通基準によるアンケート調査の内容をもとに「一人当たりの消費額」(下表)を算出

※2 観光消費額は、「一人当たりの消費額」に、入込延べ数から推計した入込実数を乗じて算出

※3 しまね統計情報により算出した平成 22 年の観光消費額が県経済に及ぼす影響:約 1.20 倍により計算。

### ○1人当たり消費額

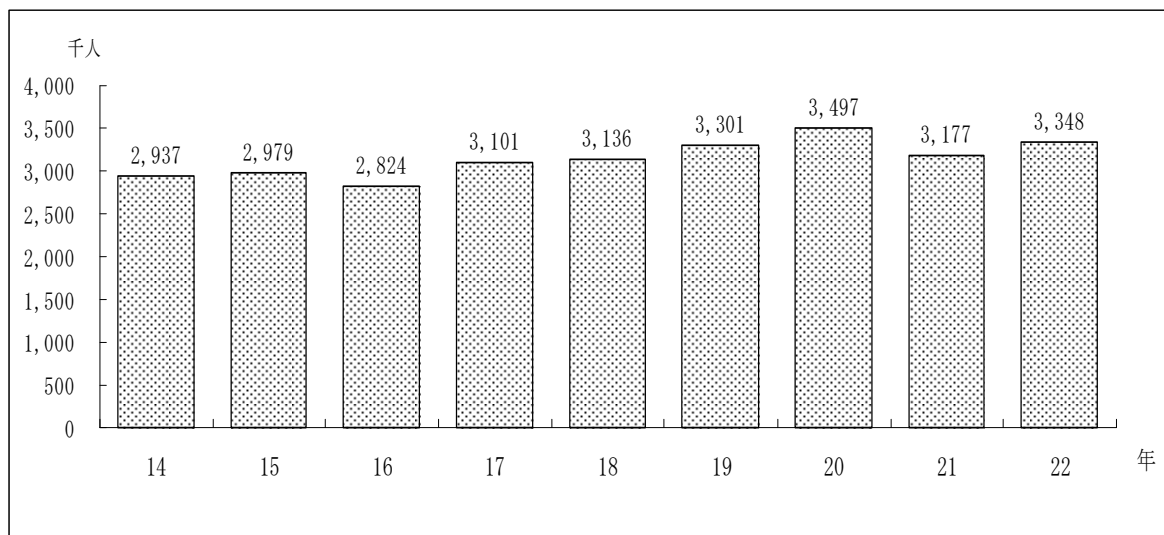
区分	一人当たり消費額 (円)	対前年増減
県内客・宿泊	15,318	-1.4%
県外客・宿泊	24,892	-6.7%
県内客・日帰り	2,820	-21.2%
県外客・日帰り	7,783	-2.7%

※ 宿泊：島根県内に 1 泊以上宿泊する観光客。  
 ※ 日帰り：旅行日程が日帰り及び宿泊であっても島根県内には宿泊しない観光客。

## 3. 県内宿泊客延べ数

平成 22 年の島根県内宿泊施設への宿泊客延べ数は 3,348 千人であり、前年と比べると 171 千人 (+5.4%) 増加した。

(宿泊客延べ数の推移)



	ホテル・旅館	民宿・ペンション等	社会教育施設	公共の宿泊施設	キャンプ場	合計
宿泊延べ数(人)	2,836,336	104,497	76,022	215,925	115,196	3,347,976
構成比(%)	84.7%	3.1%	2.3%	6.4%	3.4%	100.0%
対前年増減(%)	108.5%	90.1%	101.6%	83.0%	102.9%	105.4%

#### 4. 外国人宿泊客延べ数

平成22年の島根県の外国人宿泊客延べ数は22,485人であり、前年と比べ571人(+2.6%)増加した。

平成15年度から始まった政府の「ビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)」により、全国的に官民あわせて外国人観光客誘致に取り組んでいる。今年は、世界的な景気低迷・新型コロナウイルスの影響が収まり旅行需要が回復したことなどにより、宿泊数が増加した。

〈平成22年訪日外国人宿泊客延べ数〉

国	籍	宿泊客延べ数		対前年増減 (%)
		(人泊)	構成比 (%)	
米	国	2,672	11.9%	-12.1%
カ	ナ	255	1.1%	1.2%
中	南	43	0.2%	-69.1%
ヨ	ー	4,262	19.0%	4.8%
韓	国	3,792	16.9%	95.7%
台	湾	5,466	24.3%	41.5%
香	港	202	0.9%	-38.0%
中	国	2,445	10.9%	-51.3%
そ	の	1,403	6.2%	25.0%
オ	セ	302	1.3%	-15.9%
ア	フ	9	0.0%	-71.9%
そ	の	1,634	7.3%	-6.9%
合	計	22,485	100.0%	2.6%

#### 5. 観光入込客延べ数の分析

##### (1) 主要観光地観光入込客延べ数

市町村及び観光地・観光施設ごとの入り込み延べ数の上位10箇所は以下のとおりである。

〔市町村〕

市町村	入込客延べ数 (人)	対前年増減 (%)
松江市	8,764,546	-1.2%
出雲市	8,249,766	6.7%
浜田市	1,992,606	13.2%
安来市	1,581,237	18.1%
大田市	1,425,421	-8.7%
津和野町	1,340,123	-3.0%
益田市	921,268	3.6%
雲南市	884,550	0.0%
斐川町	743,978	13.3%
奥出雲町	743,274	13.9%

〔観光地・観光施設〕

記号	入込客延べ数 (人)	対前年増減 (%)
出雲大社(出雲市)	2,468,000	7.0%
日御碕(出雲市)	1,109,000	-2.2%
島根ワイナリー(出雲市)	843,400	-3.4%
石見海浜公園(浜田市)	752,480	3.8%
太鼓谷稲成神社(津和野町)	644,546	-7.9%
玉造温泉(松江市)	633,809	5.5%
足立美術館(安来市)	591,816	37.2%
道の駅キララ多伎(出雲市)	575,227	5.8%
三瓶山(大田市)	570,100	-1.6%
アクアス(浜田市)	470,758	-2.7%

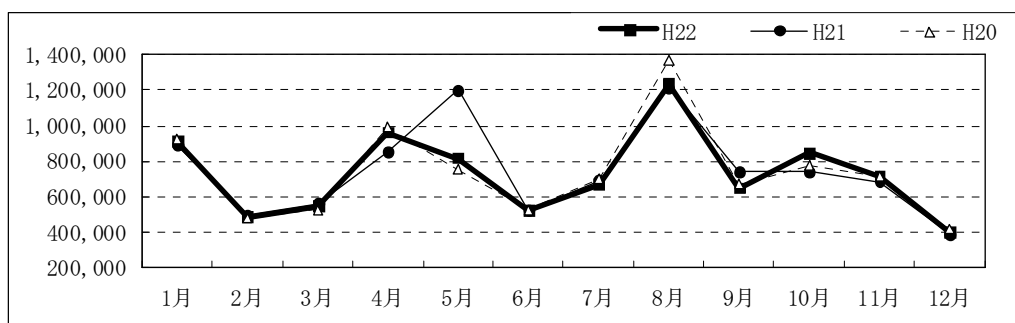
(2) 地域別観光客入り込み延べ数

地域別に観光客入り込み延べ数を比べると、最も多いのが出雲地域の8,994千人、次いで松江地域で8,765千人、益田地域の2,538千人、浜田地域の2,309千人、大田地域の2,003千人、雲南地域の1,992千人、安来地域の1,581千人、隠岐地域の221千人の順となった。

前年と比較して、安来地域、雲南地域、出雲地域、浜田地域、益田地域が増加したのに対し、松江地域、大田地域、隠岐地域は減少した

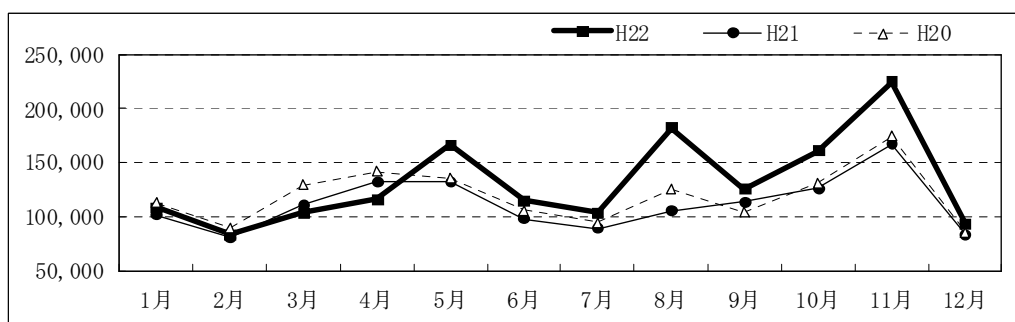
<地域別月別観光客入り込み延べ数>

松江地域



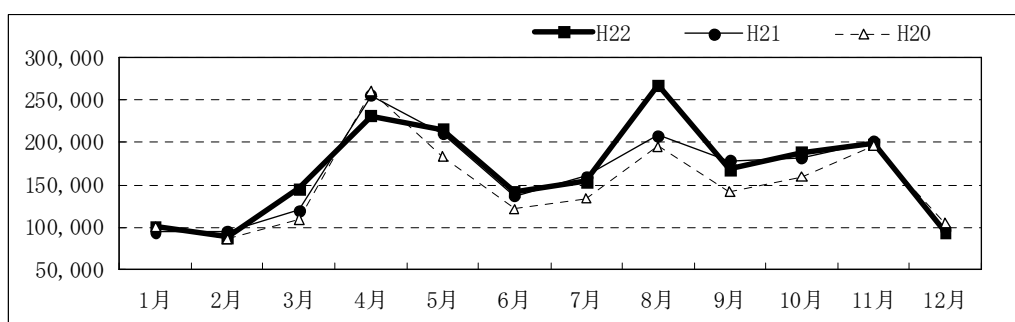
年	入り込み数
H22	8,764,546
H21	8,994,127
H20	8,859,017
対比	増減
H22対H21	-2.55%
H22対H20	-1.07%

安来地域



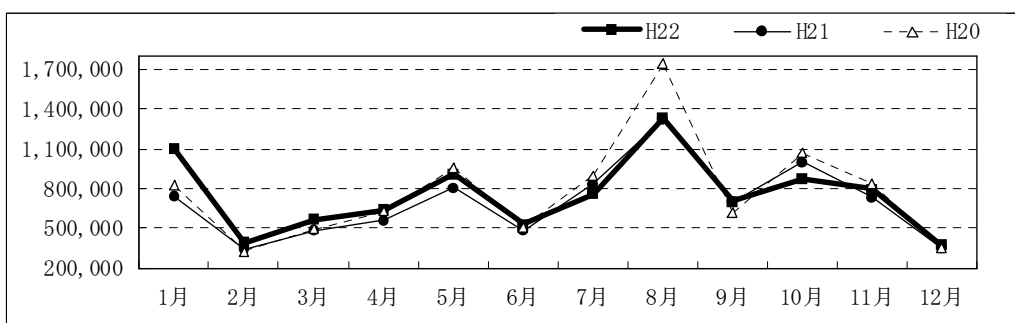
年	入り込み数
H22	1,581,237
H21	1,338,599
H20	1,429,655
対比	増減
H22対H21	+18.13%
H22対H20	+10.60%

雲南地域



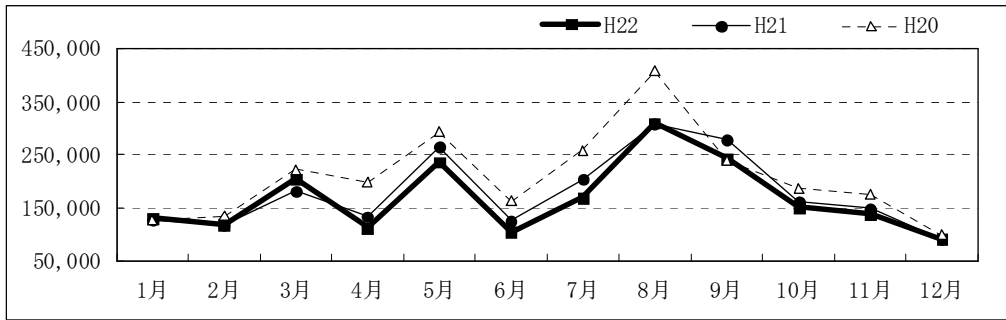
年	入り込み数
H22	1,992,173
H21	1,937,333
H20	1,792,616
対比	増減
H22対H21	+2.83%
H22対H20	+11.13%

出雲地域



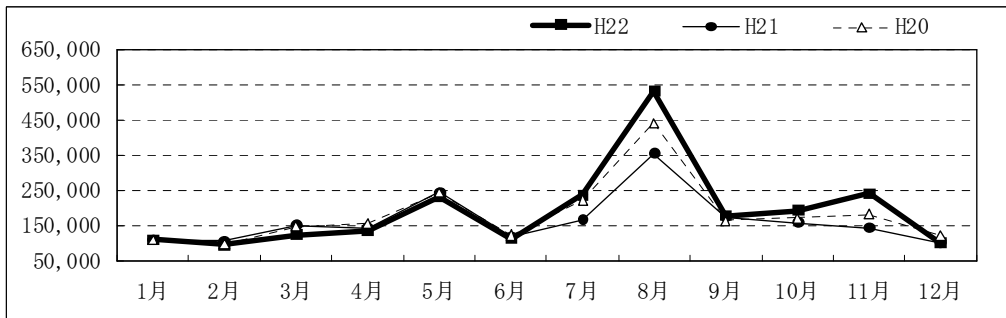
年	入り込み数
H22	8,993,744
H21	8,388,351
H20	9,267,544
対比	増減
H22対H21	+7.22%
H22対H20	-2.95%

大田地域



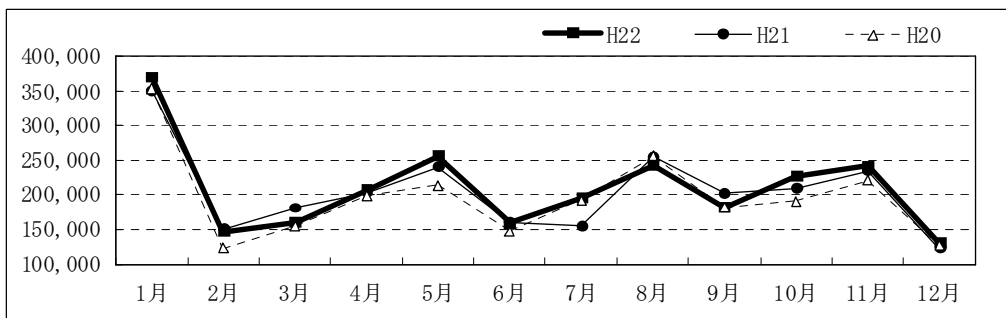
年	入り込み数
H22	2,003,314
H21	2,138,885
H20	2,501,986
対比	増減
H22対H21	-6.34%
H22対H20	-19.93%

浜田地域



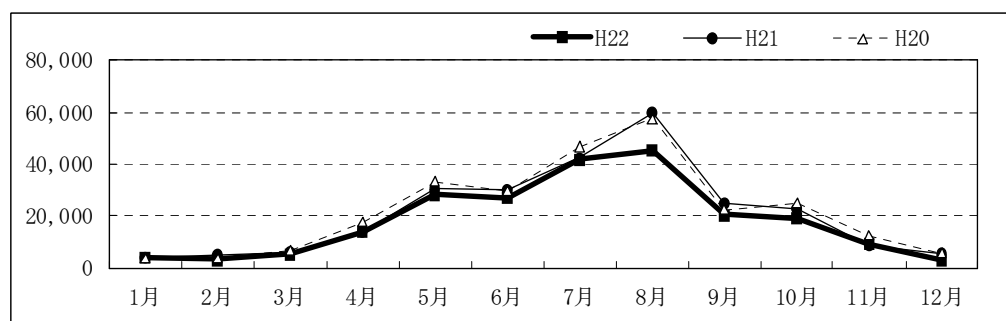
年	入り込み数
H22	2,308,549
H21	1,988,594
H20	2,201,981
対比	増減
H22対H21	+16.09%
H22対H20	+4.84%

益田地域



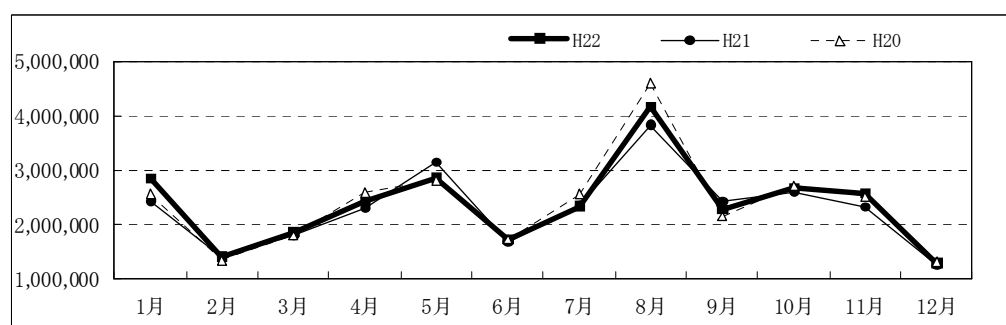
年	入り込み数
H22	2,538,427
H21	2,464,681
H20	2,360,190
対比	増減
H22対H21	+2.99%
H22対H20	+7.55%

隠岐地域



年	入り込み数
H22	221,204
H21	253,982
H20	264,024
対比	増減
H22対H21	-12.91%
H22対H20	-16.22%

全県



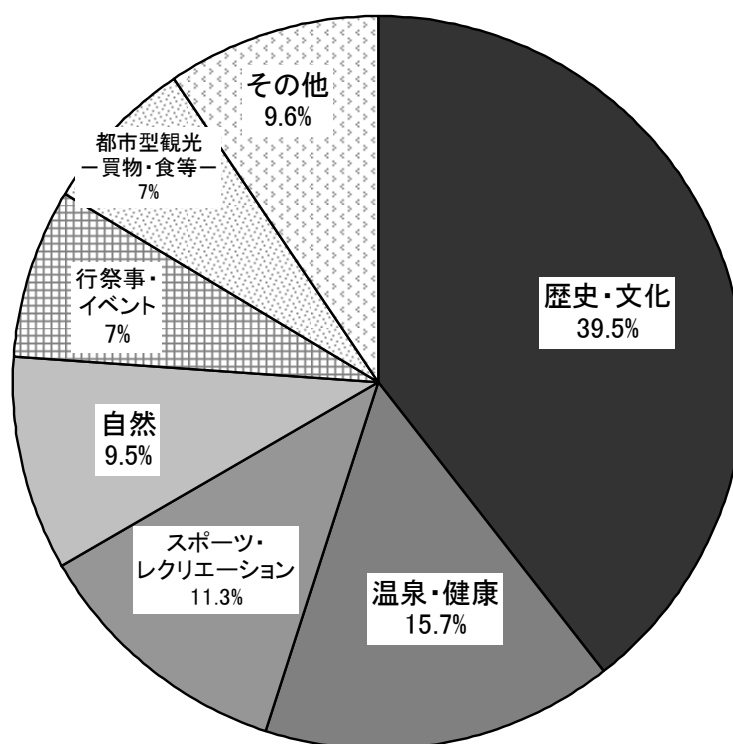
年	入り込み数
H22	28,383,141
H21	27,504,552
H20	28,677,013
対比	増減
H22対H21	+3.19%
H22対H20	-1.02%

(3) 行動目的別入り込み延べ数

市町村から報告のあった観光地点（施設等）を観光客の行動目的別（中分類）に分類、集計の上比較すると、最も多いのが「歴史・文化」で全体の39.5%、次いで「温泉・健康」の15.7%、「スポーツ・レクリエーション」の11.3%となっており、この上位3項目で全体の7割弱を占める。

行動目的	入込延べ数 (人)	対前年増減 (%)
歴史・文化	11,208,095	2.0%
温泉・健康	4,445,459	-1.2%
スポーツ・レクリエーション	3,292,934	8.1%
自然	2,702,196	-2.4%
行祭事・イベント	2,060,379	18.3%
都市型観光－買物・食等－	1,973,417	-4.3%
その他	2,720,714	12.2%

《観光目的別割合》



《観光目的別入込数の上位5区分（その他除く）》

中分類	小分類	入込延べ数 (人)	対前年増減 (%)
歴史・文化	神社・仏閣	5,946,184	3.4%
温泉・健康	温泉	4,445,459	-1.2%
歴史・文化	博物館	1,765,402	0.0%
自然	海岸	1,504,073	-5.0%
都市型観光－買物・食等－	食・グルメ	1,133,593	-3.9%



6. 観光客の動向（観光地点アンケートによる）

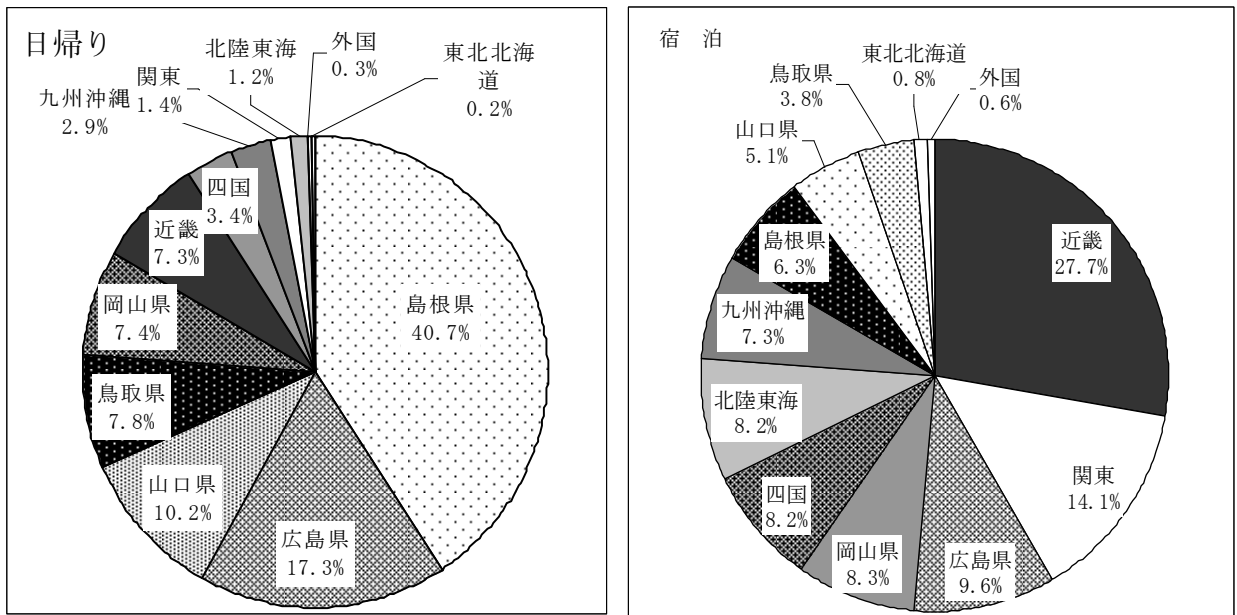
平成22年観光地点アンケート調査によって得られたデータをもとに、観光客の動向を分析する。

(1) 発地（住所）

ア. 日帰り・宿泊別入り込み割合

日帰りでは、島根県が最も多く40.7%、次いで広島17.3%で、中国5県からが全体の約8割(83.4%)を占める。

宿泊では、近畿が最も多く27.7%、次いで関東14.1%、近畿・関東地域を合わせると約4割(41.8%)を占め、中国5県の約3割(33.1%)を上回っている。



イ. 県外観光客入り込み割合

県外客の発地別入り込み割合は、近畿からが最も多く20.9%、次いで広島20.0%、山口11.5%の順となっている。中国4県を合わせると全体の約5割(51.0%)を占めている。過去2年間と比べると近畿の割合が増加している。

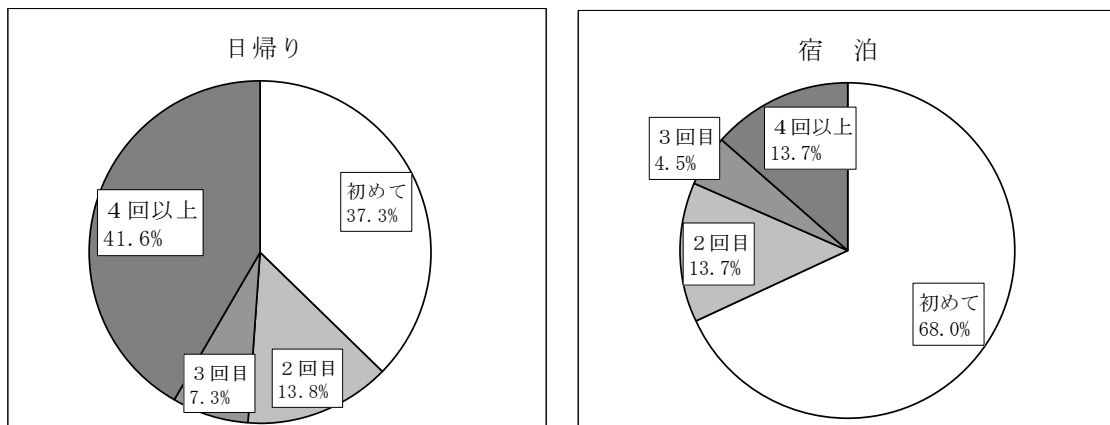
〈県外観光客発地別入り込み割合の推移 (%)〉

H20	8.0	10.0	23.1	9.3	7.5	6.0	18.5	6.1	10.1	1.2	
H21	7.5	9.7	22.6	9.7	7.1	7.0	19.4	6.9	9.1	1.0	
H22	8.7	10.8	20.0	11.5	6.3	7.2	20.9	5.3	8.6	0.6	
	鳥取	岡山	中国 51.0	広島	山口	九州	四国	近畿	北陸 東海	関東	東北 北海道

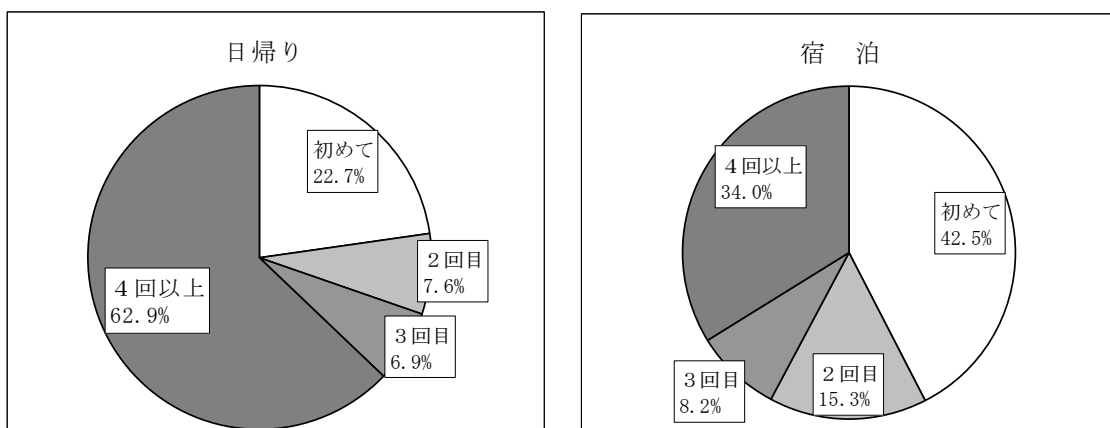
(2) 旅行回数

観光施設への訪問回数は、日帰りの場合はリピーターが多く、宿泊の場合は初めての方が多い。島根県への訪問回数も同様の傾向があるが、初めての割合は大きく下がる。

①観光施設の訪問回数

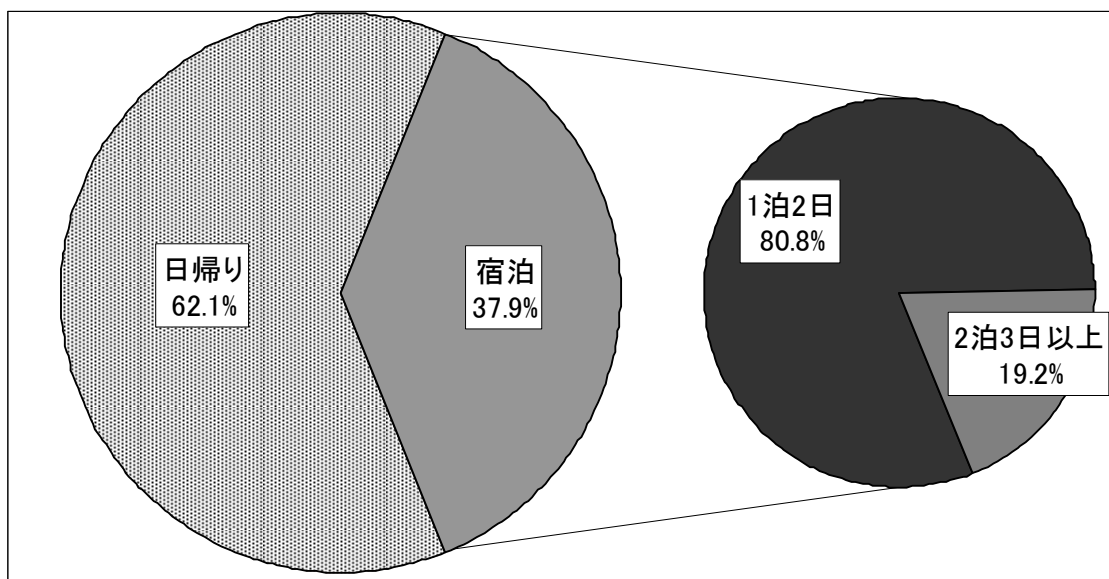


②島根県の訪問回数(なお、この項目は県外客のみに島根県への訪問回数を質問している。)



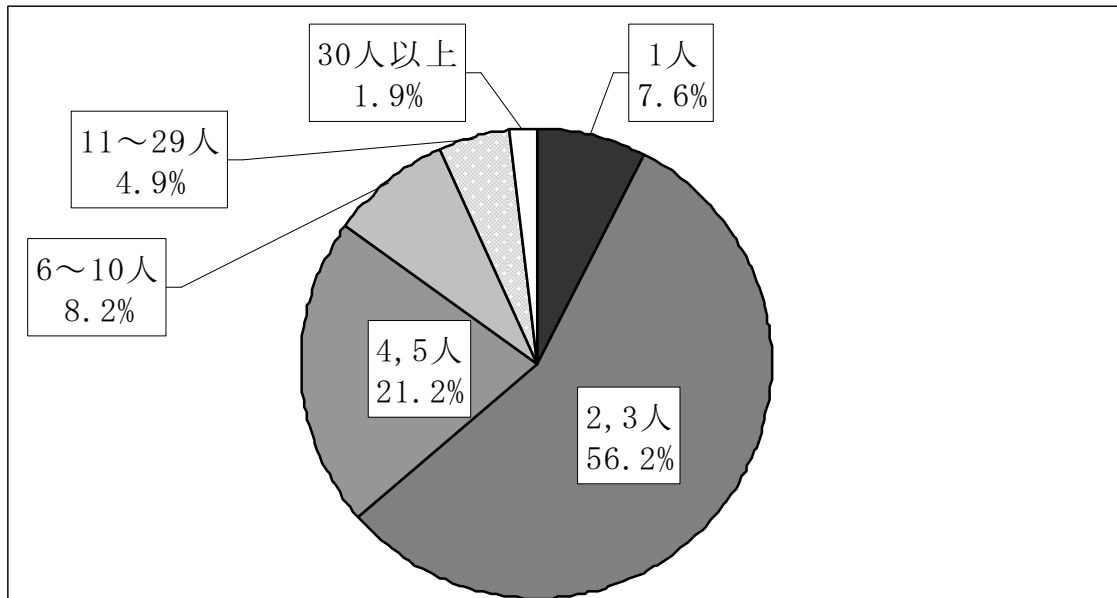
(3) 旅行日程

「日帰り」が62.1%、「宿泊」が37.9%と、日帰り客が宿泊客の約1.5倍となっている。宿泊客の内、ほとんどが「1泊2日」で80.8%を占める。



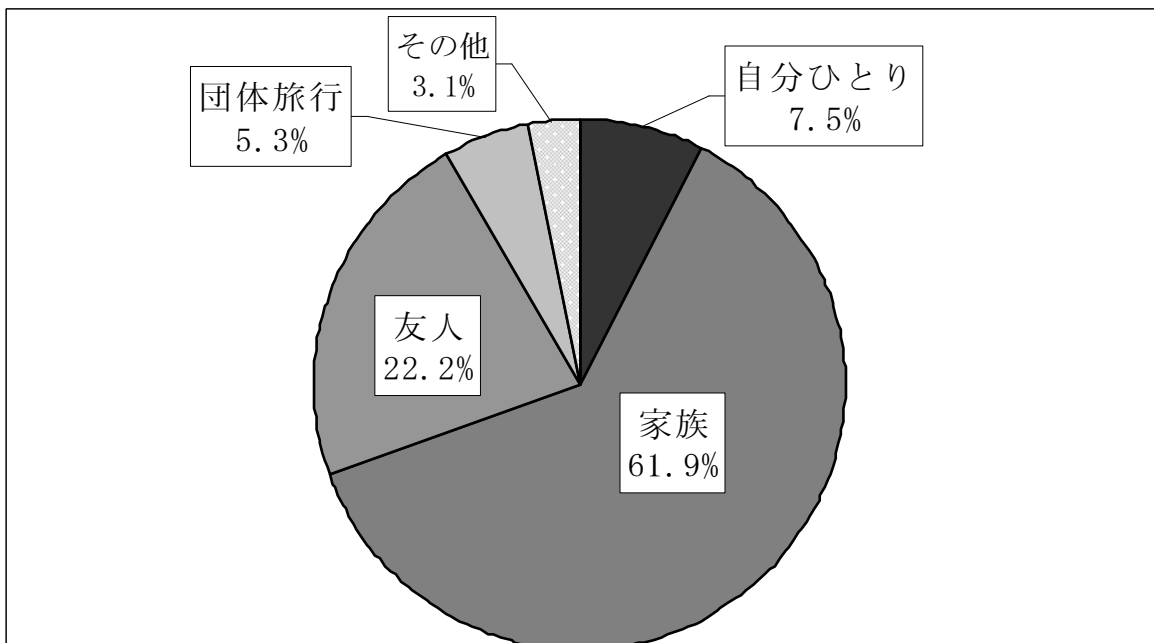
(4) 同行人数

日帰り、宿泊でほぼ同じ傾向であり、全体として「2, 3人」が最も多く全体の約5割強(56.2%)を占める。



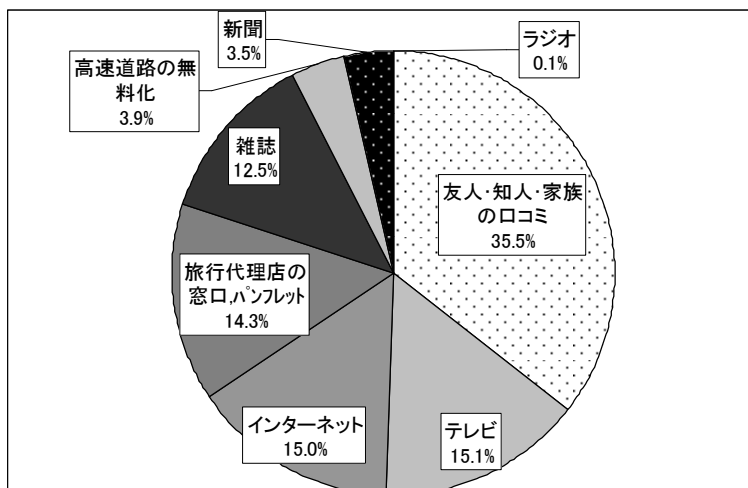
(5) メンバー構成

日帰り、宿泊でほぼ同じ傾向であり、全体として「家族」が最も多く61.9%、次いで「友人」22.2%であった。



(6) 旅行地を決定する際のきっかけ

友人・知人・家族の口コミが35.5%と最も多く、次いでテレビ、インターネット、旅行代理店と続く、高速道路無料化の社会実験も約4%あった。

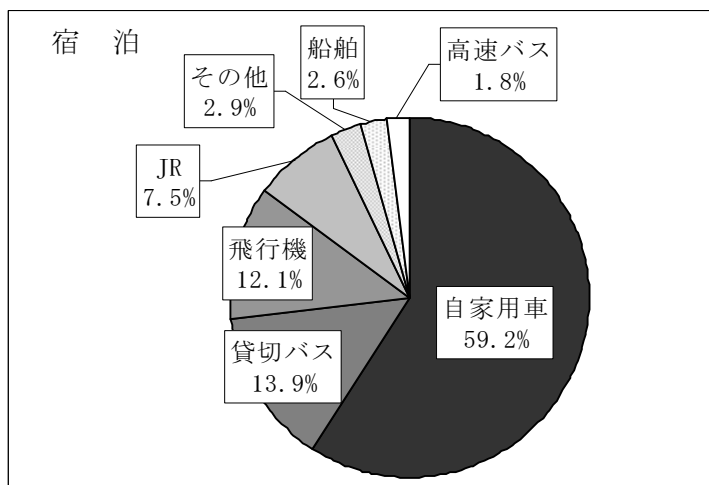
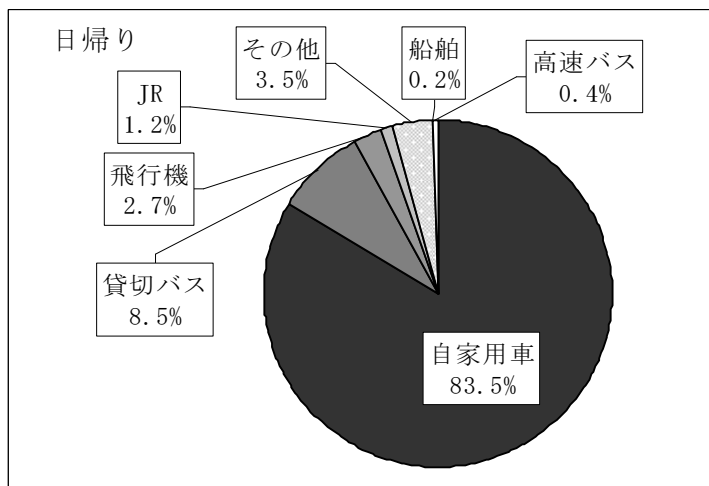


(7) 利用交通機関

ア. 日帰り・宿泊別入り込み割合

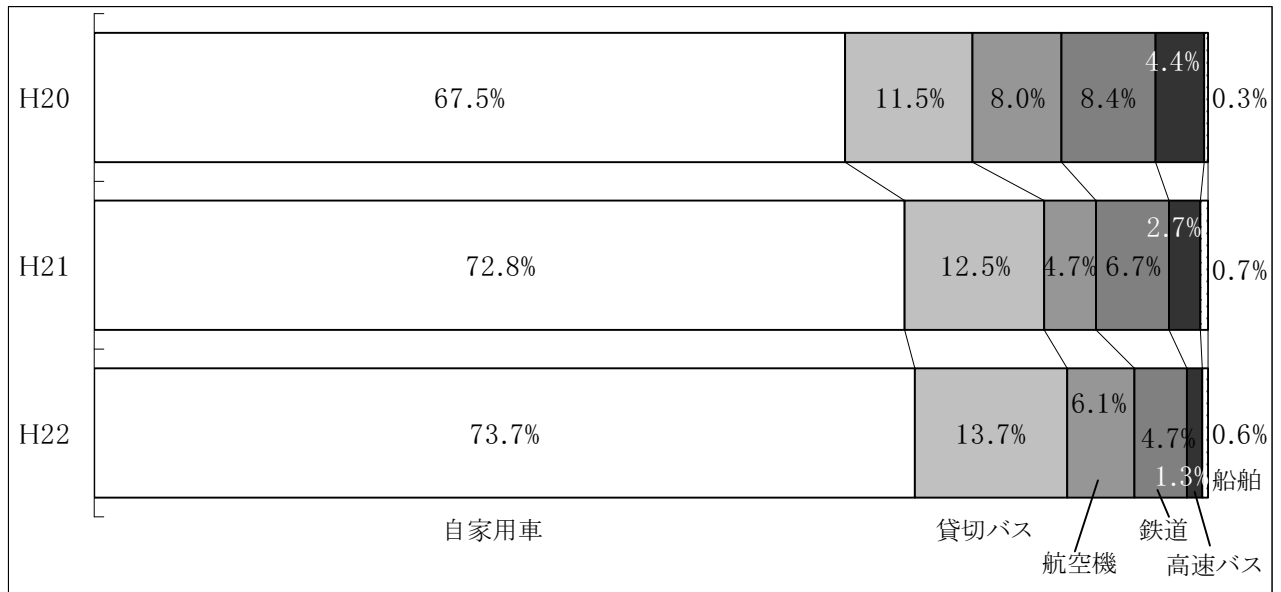
日帰りでは、自家用車が約8割(83.5%)を占めている。

宿泊では、自家用車が約6割(59.2%)、次いで貸切バス、飛行機がほぼ同じでそれぞれ約1割を占めている。



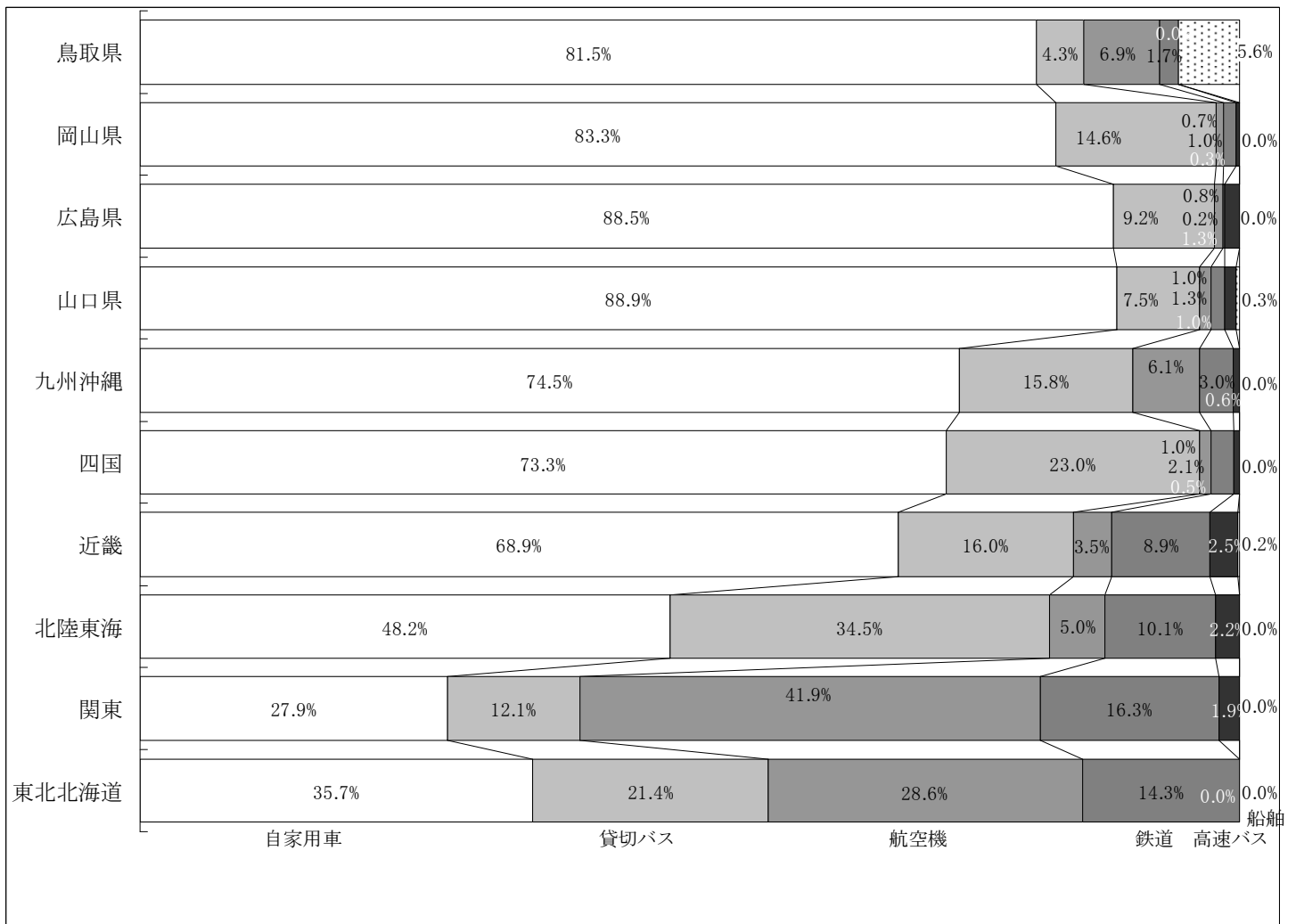
イ. 県外観光客入り込み割合

県外客について利用交通機関別にみると、自家用車が最も多く全体の7割強を占め、次いで貸切バス、航空機の順となっている。ETC 割引制度及び高速道無料化社会実験の影響で自家用車の割合が増えた。



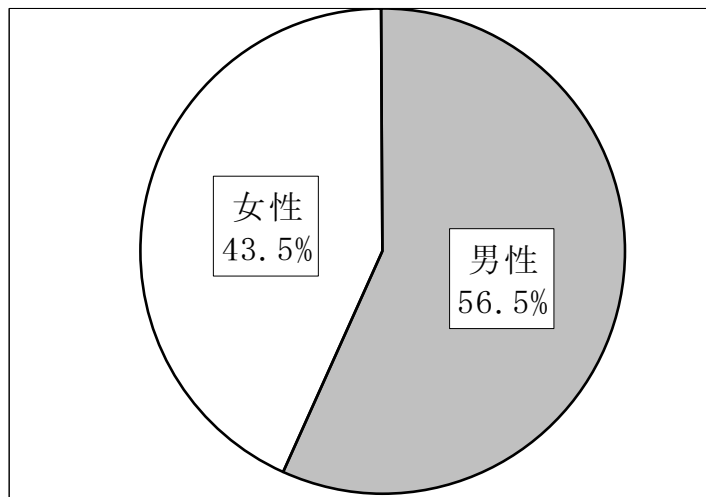
ウ. 地域別(県外)移動手段別割合

県外客について地域別にみると、中国、九州、四国、近畿では自家用車が5割以上を占め、関東では航空機の利用が最も高くなっている。



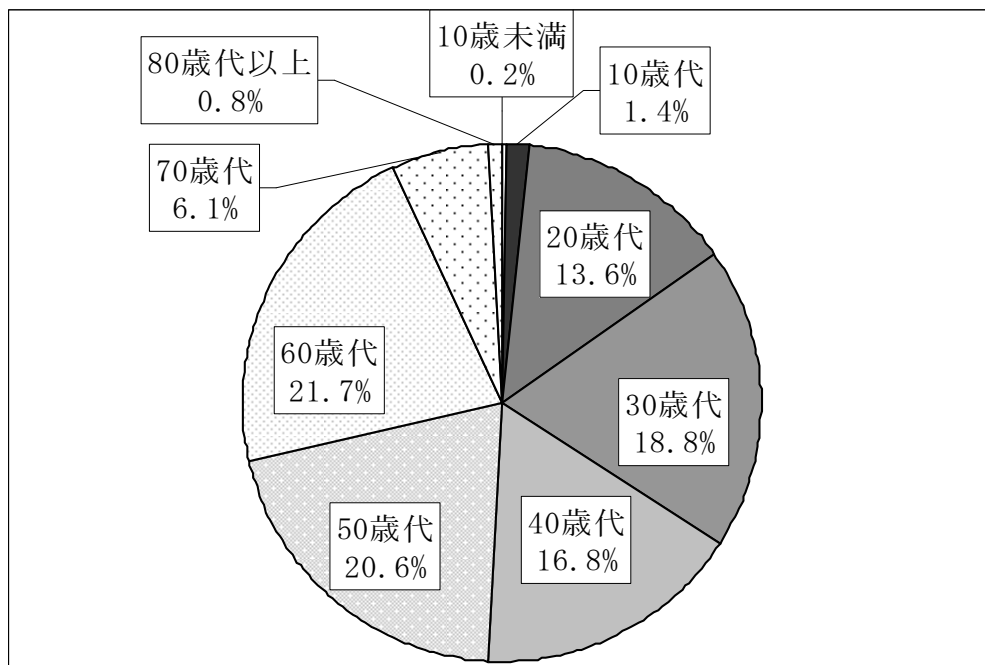
(8) 性別

日帰り、宿泊でほぼ同じ傾向であり、全体として「男性」が約 6 割(56.5%)、「女性」が 4 割(43.5%)であった。



(9) 年齢

日帰り、宿泊でほぼ同じ傾向であり、30歳代から60歳代が約2割ずつ占めている。

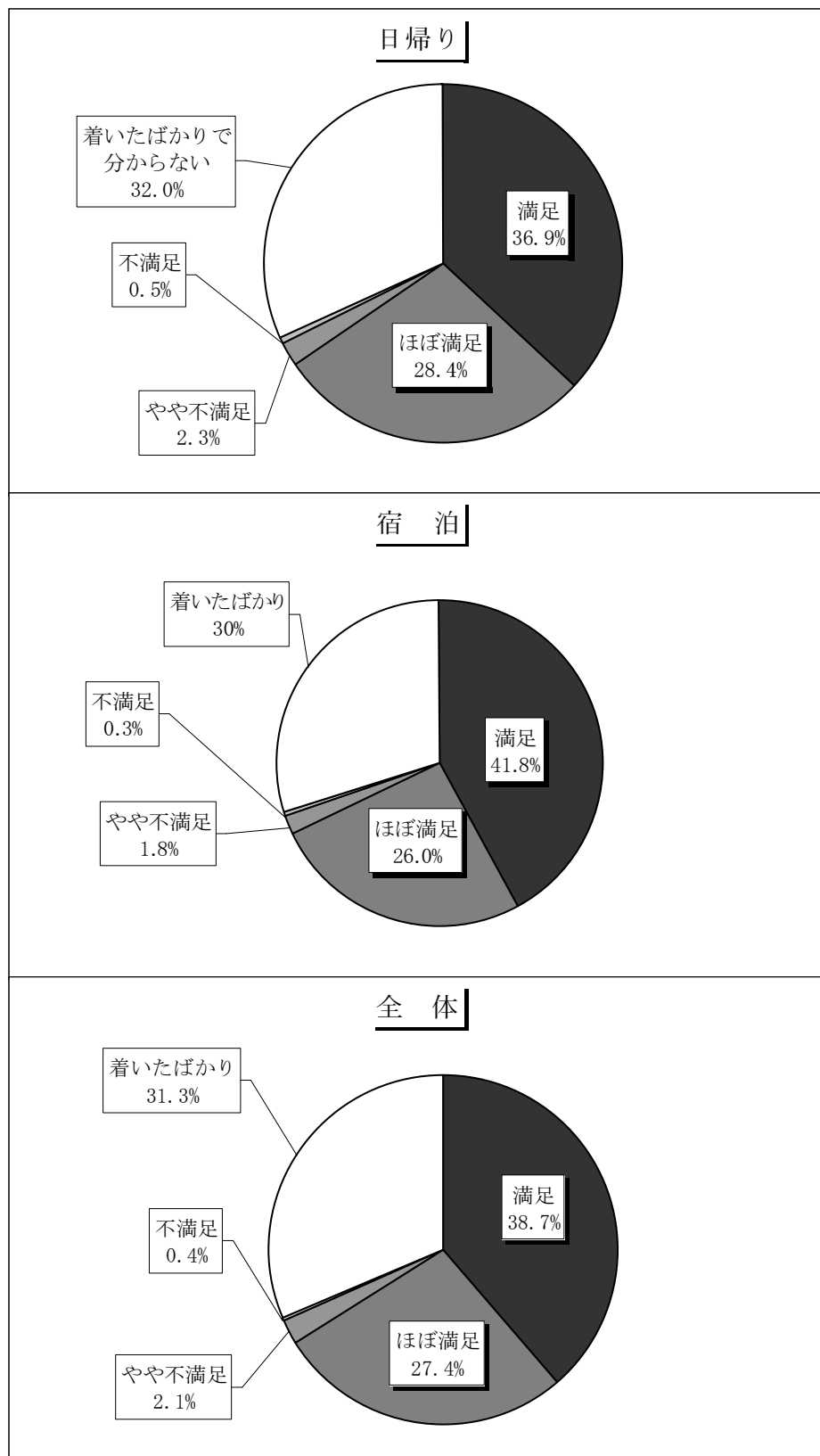


(10) 満足度

日帰り宿泊ともに、「満足」と「ほぼ満足」を合わせると6割以上が満足している結果である。

一方「やや不満足」と「不満足」を合わせると日帰りと宿泊を合わせて2.5%であった。なお、「着いたばかりでわからない」は日帰り宿泊とも3割強であった。

不満の理由としては、「道路に関する苦情」や「駐車場に関する苦情」、「飲食店などでのサービス」などがあつた。



# Ⅲ 調査結果

## (データ編)